

第13回人権ショートストーリー入賞作品

(小・中学生の部)

最優秀賞

「ころ」

目が見えなくても、耳が聞こえなくても、お話しすることが出来なくても空の下にいることは、みんな同じなんだよ。だから今日も、温かいところで、繋がってしよう。

優秀賞

「個性とは」

人と違うことは恥ずかしいことなんかじゃない。名前も顔も体型も、みんなその人のもつ個性であって、どれも素晴らしい。いま一度、自分自身としっかりと向き合って、自分を認めることが大切だと思います。

優秀賞

「同じ人間だから」

しょうがいがあるとか、はだ色がちがうとか、そんな事は関係ない世界になったらいいなと思う。差別がなくなればみんな楽しく生きていけると思う。みんな同じ様に生まれてきて、同じ人間だからみんななかまたちから。

優秀賞

「わたし」

わたしは、「あなたはおとこの子ですか？おんなの子ですか？」ときかれたら「みつきです」とこたえます。

佳作

「思いやる心のわ」

自分が気にしていることを言われたら、どんな気持ちになるだろう。だれもが、いやな気持ちだろう。相手の気持ちを自分におきかえること。思いやる心のわが広がれば、だれもが、笑顔あふれる世界になると思う。

佳作

「みんなともだち」

ちゅうごくじんのおじさんに「おはよ」っていったら、「おはよ」ってわらってくれた。ぜんぜんこわくなかったよ。こんどは「にーはお」って試してみようかな。

佳作

「2-1」

私はクラスに入れなくて困っていた。担任の先生に音楽会の練習に参加したらと言われた。少し不安だったがみんなが心よく受け入れてくれた。音楽会はみんなで参加し最優秀賞を取った。みんなの気持ちがうれしかった。

佳作

「私がそばにいたら」

私がそばにいたら、あのコの苦しみは半分になっていたかもしれない。私がそばにいたら、「やめなよ」って言えていたかもしれない。画面越しじゃなくて、私がそばにいたら。

佳作

「入院中のお父さんへ」

ぼくが勉強でこまっていたら、いつも助けてくれたお父さん。お母さんからお父さんの病気のことをきいたとき、ぼくは悲しかったです。お父さん、退院するのを待ってます。退院したら一しょに勉強してね。

(高校・一般の部)

最 優 秀 賞

「3歳の息子へ」

「赤ちゃんが泣くのは仕方ないよ」と言った私に、「赤ちゃんだって悲しくなるし怒るんだよ」って怒ったね。泣いてる妹の頭をなでる成長した姿に、ママは本当に大切なことを教わりました。ありがとう。

優 秀 賞

「ボタンを押してくれたご婦人へ」

初めて車椅子に乗った日、エレベーターであなたは「開」ボタンを押して待っててくださいました。未来に絶望していた私は、予期しない優しさに涙がこみ上げました。「生きていいんだよ」、私にはそう聴こえました。

優 秀 賞

「真冬の新聞配達」

雪積もる真冬の早朝、泣きながら新聞配達をしていた僕に「いつもありがとう」とカイロをくれたおじさんへ。あの時程僕は失語症である事を後悔した事は無いし人の温かさを感じた事は無いです。ありがとう、おじさん。

優 秀 賞

「介護実習にて」

1日目 全員同じに見えた 2日目 会話が出来なかった 3日目 傷つけてしまった 4日目 にっこりしてくれた 最終日手紙をくれた、私が描かれていた。涙が出た。大切なことを教えてくれてありがとう。

佳作

「五才の息子へ」

電車で座っている前の人を見て、「なんで肌の色が違う人がいるの？」って言うていたね。いいじゃないか。クレヨンも一色だけじゃつまらないだろう？

佳作

「笑顔の花」

人は考え方も価値観も顔も性格も違います。でも一つだけ同じことがあります。それは人間ということです。同じ人間が互いに思いやり、励まし合うことで笑顔の花が咲くでしょう。世界に一輪の花を咲かしませんか。

佳作

「『現代』を生きる子どもたちへ」

「多数決」の危険を知ってください。一人苦しむ友達を救えないかもしれない。「空気を読む」ことの危険を知ってください。みんなの間違いを救えないかもしれない。正しい選択肢は君たち一人一人のこころの中にある。

佳作

「いのちを大切に」

ひとつひとつのかけがえのない命。私たちは幸せになるために生まれてきた。どの人も唯一無二のかけがえのない存在。みんなと同じじゃなくていいんだよ。お互いの違いを認め合い、助け合い、心豊かに生きていこうよ。

佳作

「笑顔の教訓」

どんな人でも絶対に1つはいいところがあるからそれを見つけなさい。母の口癖。おかげさまで職場で「お前にかかればどんなやつもいいやつだな！」って言われる。笑顔の教訓。お母さん。ありがとう。